

KSKP

たびだち つうしん

出

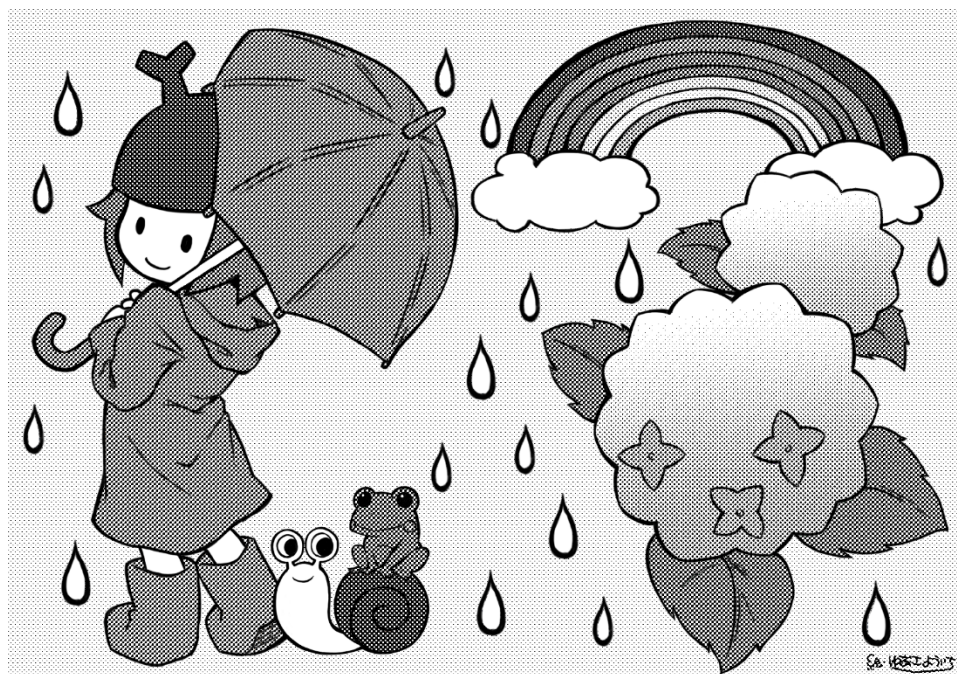
発

通

信

NPO法人 出発のなかまの会 172号

一九八四年 八月二十日 第三種郵便物承認  
 毎月（1・2・3・4・5・6・7・8の日）発行



もくじ  
目次

しんがた <small>かんせんしゃはっせい</small> <small>ほうこく</small> <small>れい</small> 新型コロナ感染者発生のご報告とお礼	2、3
コロナにかかりました	4
ちいき <small>つな</small> <small>まつののうえん</small> 地域と繋がる松野農園	5
あわじしま <small>い</small> そうだ、淡路島へ行こう！	6
はじ <small>とま</small> <small>きかく</small> ゆーすとで初めてののお泊り企画	7
しんぶん どんどん新聞より	8、9
こそだ <small>にっき</small> <small>ばんがいへん</small> <small>そだ</small> 子育て日記 番外編！？ ～ウーパールーパーを育てる～	10
こそだ <small>にっき</small> <small>しんじんしょうかい</small> スタッフ子育て日記／新人紹介	11
かつどう 活動のあと	12

## 新型コロナ感染者発生のご報告とお礼

昨年度は新型コロナ対策に追われた 1 年でしたが、3 月末、当会もメンバー 1 名の陽性判明をきっかけに、2 週間ほどの間にメンバー 8 名、支援者 12 名、親御さん 2 名の計 22 名の陽性者を出すことになってしまいました。幸い軽症者が多く、4 月中旬には全員が療養解除となりましたが、メンバー 1 名は一時呼吸状態が悪くなり、転院して気管内挿管で呼吸器をつける状態になりました。多くの方々にご心配をおかけしたことをお詫び申し上げます。また、当会の支援体制だけでは支援が回りきらず、さまざまな団体よりグループホームへの直接支援、食事や日用品の宅配などの後方支援、また、レッドゾーン（陽性者のいるグループホーム）への直接支援など、多大なご支援をいただいたことを深く感謝申し上げます。

3 月 22 日、異なるグループホームに住むメンバー 2 名が発熱、新型コロナへの感染が判明しました。すぐに関係メンバー・職員（ヘルパー含む）全員の PCR 検査を手配・実施しましたが、入院調整や濃厚接触者の確定など保健所や大阪市との連絡に追われている間にも続々と新たな感染者が判明しました。ヘルパーの中にはダブルワークをしている人や基礎疾患を持つ人も多いため、現場に入れる支援者がどんどん減って支援体制が逼迫し、このままでは支援を維持できないと判断、応援職員を要請することとしました。まず、近隣事業所や障大連（当会が所属する障害者団体）にお願いしたところ、日頃はお互いに人材不足だと話しているにもかかわらず、すぐにたくさんの方々の手伝いに来てくださいました。また、大阪府の応援職員派遣スキームも活用したところ、「うちも昨年クラスターを出して、大変さはよくわかるから」と、これまでつながりのなかった団体からもすぐに連絡をいただき、支援に入ってもらうことになりました。普段は 1 ヶ月単位のシフト体制を敷いているのですが、毎日夜遅くに翌日の支援体制だけが決まる状態になり、私たちも危機感・疲労感が募っていたところ、皆様方からの温かいお言葉やご支援に“何とか頑張れる！”と力づけられ、当会支援者で再び活動できるようになるまで支援を続けることができ、本当に感謝でいっぱいです。これまでも自分たちなりに感染症対策をしていたつもりでしたが、外部の方々に入ってくださいことで、それぞれの事業所での対策・工夫を教えていただいたり、日常のケアや職員の対応についてご指摘を受けたりと、多くの学び・気づきの機会にもなりました。

そして、今回のクラスター発生で、改めてグループホームでの感染症対策の難しさを感じることとなりました。たとえば、トイレや浴室が共用であったり、個室はあってもリビングで集う生活習慣を持っていたためゾーニング（汚染区域と清潔区域を明確に区別すること）が難しい住環境・生活様式であること、マスクをつけ続けることが苦手であったり清潔を保持しにくい行動特性を持つメンバーが多くいること、身体介護など接触を伴うケアを頻回におこなっていること、等々があげられます。新型コロナウイルスの場合は“濃厚接触者”の外出が制限されるため、感染していない方が長期にわたって自粛生活を強いられることにもなってしまいました。日中活動の場である作業所が突然閉所となり、生活の場であるグループホーム内をマスクやフェイスシールド、手袋に防護服姿で支援者が行き交い、日常の外出も全くできなくなるという、メンバーにとっても見通しのつかない不安な日々が続いたと思いますが、“非常事態”を感じてくれていたのか大きな混乱はなく、普段以上に居室で長時間過ごす生活を続けてくれていました。

また、“本人のことをよく知っている支援者がいない状態での入院では難しいのではないかと当初不安に感じていた入院療養でしたが、ほとんどのメンバーが精神科病院の感染症病棟に入院することになったため、必要最小限のケアではありましたが、病棟内では自由に動き回ることができたようで、無事に回復して帰ってくることができました。グループホームで新型コロナウイルス感染症が発生した場合、感染者ができるだけ速やかに入院するか濃厚接触者が完全に離れた場所で生活する以外に感染拡大を防ぐのはきわめて難しいことだとも実感しました。

軽症者が多かったとはいえ重症化された方もいらっしゃったり、療養解除後も倦怠感や微熱など体調不良が続くなど完全な治癒までに時間がかかる方が何人もいらっしゃったりと新型コロナウイルス感染症が侮れない病気であることは間違いありません。今回、関係各所に多大なご迷惑をおかけしながら学んだことを無駄にしないため、お世話になった方々には発生の際の経緯やその後の経過、考察などをまとめてご報告する予定にしております。今回の経験を自分たちの日々の支援を振り返る機会ととらえ、この感染症と上手に付き合いながらも充実した生活を送れるよう、日々の取り組みも再検証していきたいと思っております。

皆様、本当にありがとうございました。



(ミサオ・K)

## コロナにかかりました

コロナにかかりました。最初39℃の熱が出ました。車が迎えに来て十三市民病院に入院した。病院はまあまあ広かった。毎日のごはんは、おかゆでした。コロナにかかって、体中がしんどかったです。熱が40℃も出て、頭も痛くなりました。大阪市立総合医療センターに転院して、鼻から管を入れたのがしんどかった。気持ち悪かった。看護師さんに「抜いたらあかん」と言われました。病院に2週間も入りました。毎日点滴でした。酸素はかるやつを手で巻いていました。そのあと寝屋川サナトリウムに入院しました。病院に日めくりカレンダーを忘れて帰りました。スタッフに取りに行ってもらいました。

コロナはもういや～！！

(カウン・K)

新型コロナウィルスに感染して入院されたKさんですが、退院の直後は2度も転院したことは覚えておられませんでした。それほどまでに深刻な状況だったことがうかがえます。本当に回復されて何よりです。おかえりなさい！Kさん。



## 地域と繋がる松野農園

松野農園では、2014年6月から地域住民誰もが参画し、それぞれの力を発揮して社会的役割を果たすことが出来るようなつながりをつくっていける場所として活動に取り組んできました。また、活動の意義や目的などをひろく知ってもらうために、育てた野菜をできるだけつけて、みんなでつくってみんなで食べるというコンセプトの「ランチ会」や生野区の留学生を中心に多文化交流活動をおこなう「IKUNO サラダボウル・プロジェクト」、「音楽会」「文化交流祭」「松野農園寄席」「歌とピアノの音楽会」などさまざまなイベントを企画し、実施してきました。取り組んでいる活動を周知するために、毎月ニュースレターを発行し、読んでいただいた方からうれしい反響もいただくことがあり、活動の励みになっています。

しかしながら新型コロナウイルスの感染拡大により、さまざまなイベントは中止・延期せざるを得ない状況になってしまいました。それでも、ありがたいことにフォーラムのコメンテーターとしてオンラインで活動を紹介させていただいたり、コロナ禍のなか、6次産業プランナーの方や地域で子ども食堂を運営されている方、助産院を利用している母子、空家の福祉的活用についてや日本に来る留学生の課題について卒業論文にまとめたいという大学生等々の訪問がありました。



「IKUNO サラダボウル・プロジェクト」も定期のミーティングやマイヒストリーの会などオンラインでおこなってきました。活動に興味・関心をもっていた国際交流センターから活動紹介の機会をいただき、そのセミナーに登壇されていた方々ともあたらしいつながりをもつことが出来ました。

松野農園においては、換気や消毒など感染防止につとめながら、小学生向けの英語交流活動をおこなってきました。その活動のつながりが縁となり、地域にある小学校より松野農園の畑でサツマイモの栽培をおこないたいという依頼をいただきました。生野区では児童数減少にともない、松野農園の所在地でもある生野区西部地域にある小・中学校を2022年に再編することになっています。今後、学校と連携・協力しながら、この地域が、これからの未来を担う子どもたちにとって貴重で大切な場所であるために、そして松野農園という場が少しでも何かの役に立てる存在で、何かで貢献できるように、さまざまな社会資源とネットワークを結びながら活動に取り組んでいきたいと思っております。

(トオル・Y)

## そうだ、淡路島へ行こう！

今年は「好きな人たちとドライブをするぞ！」という目標を決めた、Y さん。コロナ禍という事もあり、どうしようかと悩みつつ数カ月が過ぎた頃、Y さんが一緒に仕事をしていた職員さんが淡路島でケーキ屋を始めたという情報を入手。Y さんにも話したところ、会いに行く！という事で、ドライブの目的地が決定！

誰と一緒にいくかを話している時、「同じ職場の女性を誘うかな？」と思い、その方向で Y さんから話を聞いていると、どうやら違う様子。部屋にある写真や紙に名前を書きつつ確認していくと当会の男性メンバー K さんと M さんを誘いたい！と Y さん。まさかまさかのメンバーで、ちょっとびっくり。

目的地には、Y さんと相談しつつ、ハローキティースマイルを追加。ジャンボタクシーを貸し切り、ランチは淡路バーガーをチョイス。ウェブサイトを見て、食べる店も Y さんが決めた。

迎えた当日は絶好のお出かけ日和。ジャンボタクシーの運転手さんと一緒になり、迷いながらもケーキ屋に到着。テラス席があったので、そこで海や鳥を見ながらケーキタイム。各々、食べたいケーキやドリンクを楽しみ、贅沢な時間を過ごした。その後は、皆で淡路バーガーを食べ、ハローキティースマイルではたくさん、写真を撮った。結構、楽しかった？と思って Y さんの表情を見ると、中が暗かったので怖かった様子。いつもは何でも任せて！と怖いものなしに見える Y さんの意外な一面を発見した。

今回、企画の責任者を担当するのは初めてだったが企画内容が支援者本位になっていないか、ちゃんとメンバーさんの意思を確認できているのか不安が多かった。ドライブツアーが終わってから撮った写真を見ていると、楽しそうに笑っている Y さんが写っていたので少し安心。



行程が女性向けだったので男性メンバーたちには、つまらなかったのではと思ったが、数日後に、お礼の言葉を言われ、何だかんだで楽しかった事が分かり、またまた安心。

活動が制限される日々。予防策や企画内容を工夫して、活動の幅やメンバーさんたちの発信を少しずつ広げていけるよう、これからもメンバーさんたちと一緒に考え楽しんでいきたい。

(ワカナ・K)

## ゆーすとで初めてののお泊り企画

3月にゆーすとで合宿を行いました。参加した子どもは9名で、夕食のメニューや銭湯に行くかなど、事前に話し合いをして決めました。夕食はAくんが「串家物語」と言い、串カツとチキンカレーを作りました。Aくんがみんなの注文を聞きながら、ミニフライヤーで揚げていき、「できたでー」と言って、みんなに配りました。

銭湯に初めて行くBくん。少し緊張しながらも露天風呂で「気持ちいいなあー」といながら話をしたり、Cくんが「女湯のぞけるかなあ？」と話をすると、AくんBくんは「おばあちゃんしかおらんやろ」と突っ込んだりしています。そのあとCくんが言った言葉に一同ビックリしてしまいました。それはここでは書けない内容ですが、中学生らしい会話だなと思いつつ聞いていました。

0時頃からはみんなで持って来たテレビゲームをしました。途中で寝て、起きた後にまたゲームをしたりお話ししたり、思い思いに朝まで過ごしました。Bくんは「俺は最後まで起きとく！」と言っていました。9時頃に力尽きてしまい、みんながゲームをしなくなったのでベンチに座り、うずくまった状態になり、眠ってしまいました。

後日、感想を聞くと、夜通しみんなでゲームをしたことや、銭湯に行ったことなどをあげていました。でもみんなの中での一番印象に残ったことは、夜11時ぐらいに騒いでいて、近所の方に怒られてしまったことでした。怖くて泣いたり、“トラウマになってしまいそう”と言う子どももいましたが、Bくんが「めっちゃどれも楽しかったけど…一番印象に残ったのは怒られたことやろ！」と笑いながら教えてくれました。それも含めての思い出になったようです。



コロナ禍でみんながこれまで当たり前でできていたことが、普通にはできない日々を過ごしています。子どもたちにとっても、この1年間は人生でその時期にしかないイベントや交友関係など、大人になっていく過程での重要な経験が失われた、そんな1年だったのではないでしょうか。まだまだコロナウィルスの感染拡大が落ち着かない世の中ですが、どんな活動ができるのか、子どもたちと一緒に考えていきたいと思っています。

(コウジ・T)

しんぶん  
どんでん新聞

No.189



はつこうび 2021 ねん がつ にち  
発行日 2021 年 2 月 5 日  
はつこうしゃ  
発行者 じりつせいかつ  
自立生活センター・どんでん  
おおさかしいくのくたしま  
大阪市生野区田島1-10-30

tel 06-6758-6641 fax 06-6758-6749



かんさいだいがく こうえん い  
関西大学の講演に行ってきました。

にちじ ねん がつ にち もく ほしよ かんさいだいがくさかい  
日時:2020年12月10日(木) 場所:関西大学堺キャンパス

### ◆コロナ禍でたいへんだけれど・・・

かんさいだいがく こうえんいらい じゅぎょう こうえん  
関西大学から講演依頼があり、『リビングライブラリー』という授業での講演に、  
ことし  
今年はKさんとTさんが行ってきてくれました。

Tさんはグループホームでの生活や趣味の話をしました。途中、Tさんのパンパンに膨  
あ み がくせい なに はい き  
れ上がったリュックを見た学生さんから「何が入ってるんですか?」と聞かれ、  
と た ねんき はい しんぶん ざっし  
ゴソゴソと取り出したのは年季の入ったグローブでした。そのあとも新聞や雑誌、カレンダ  
で はな  
ーなどいろいろなものが出てきてニコニコしながら話していました。

おな いろ くつ は がくせい はな は  
同じ色の靴を履いている学生さんによく話しかけたり、ダメージジーンズを履いていた  
がくせい か い わらい かえ  
学生さんには「買いな〜」と言って、「こういうデザインなんですよ〜(笑)」と返されみ  
わら きゅうけいちゅう せんせい はなし むかし たびだち かい  
んなで笑っていました。休憩中に先生と話をしていると昔、出発のなかまの会でヘル  
おな とし も あ  
パーをしていたことや同じ年であることがわかり盛り上がっていました。

Kさんは相談支援事業所での活動やどんでんの話をしてくれました。絵画のプログラム  
しゅうじ か とくひ ひろう  
で、いろいろなイベントのタイトルを習字で書いていることや、得意のダジャレも披露して  
かいき きも がくせい き  
いました。どんでん会議のときにやっている『どんな気持ち』を学生さんに聞いてみると、  
きゅう き こま ひと きんちょう はなし き たの  
急に聞かれて困る人もいましたが「緊張しています」「話を聞くのが楽しみです」など  
こた  
答えてくれました。

Kさんはかなりの手ごたえを感じたようで、帰りの電車の中で「来られて良かったね。  
しりょう こうえんしりょう も かえ  
この資料もらってもいいかな?」と講演資料を持って帰りました。

たいへん こうえん い  
コロナで大変だけれど、これからもどんでん講演に行くぞ〜!!





# たいしこうしょう 対市交渉にリモートで参加しました。

にちじ ねん がつ にち きん ぼしよ ところ  
日時: 2020年12月11日(金) 場所: ととりの木

## ◆やっぱり直接発言して伝えたいよ~!!

まいとし たいしこうしょう さんか たいふこうしょう おな かんせん  
どんどんは毎年、対市交渉に参加しています。対府交渉のときと同じで、コロナ感染  
よぼう かいじょう い さんか  
予防のために会場には行かず、リモートで参加しました。

けっこん どうじ かいごじかん へ どうじしゃ じょせい わたし かいご けっこん  
結婚と同時に介護時間が減らされた当事者の女性が「私は介護してもらうために結婚し  
たんじゃない!」と訴えていました。映像を見たK.Sさんは「コロナ終わったら言いにか  
な!」と怒りました。

ほか えいきょう きゅう こ とき せいかつ  
他にも「コロナの影響でヘルパーが急に出来なくなった時の生活をどうすればいいか」  
せつじつ うった つづ  
など切実な訴えが続きました。

ここ なが おおさかし やくにん ちよくせつた  
午後からは、どんどんメンバーのビデオメッセージが流れました。大阪市の役人に直接伝  
えることができず、みんな悔しそうでした。

こうしょう さんか きぶん お つ はや  
リモートだと「交渉に参加した!」という気分になれないので、コロナが落ち着いて、早  
ちよくせつかいじょう い  
く直接会場に行けるようになってほしいです。



こそだ にっき ばんがいへん  
 子育て日記 番外編！？ ～ウーパールーパーを育てる～

みらくるちっぴ（児童発達支援及び放課後等デイサービス）で2匹のウーパールーパーを飼っているのですが、ある日水槽をのぞくと、黒い粒粒が大量にあり、水草にカビが生えた！？と慌てて調べると、なんとそれはウーパールーパーの卵でした。みらくるちっぴの子どもと卵をどうしたらいいか調べ、とりあえず別水槽に分けました。ざっと数えると200個以上の卵がありました。

さあここから大変！誰もウーパールーパーを卵から育てたことなんてないし、経験も知識もない。そこに強力な助っ人が。生き物に詳しい親御さんがいて、その方ももちろんウーパールーパーは育てたことはないとのことでしたが、一緒に調べたり、アドバイスを受けたりしながら飼育も含め手伝ってもらうことに。100個程の卵は専門の業者さんに引き取ってもらい、残りの120個近くの卵を無事孵化させました。孵化後は、稚魚のエサやり、フン取り、水替えなど飼育に費やす日々。思っていた以上に手間も時間もかかって大変。細かい作業が苦手な上に、老眼が追い打ちをかけ虫眼鏡片手に作業をしていました。そうして休みの日もせせと足を運ぶのが習慣になり、ウーパールーパーの成長に合わせだんだん愛おしく、楽しくなっていき、いつしか趣味の域になっていました。孵化した稚魚も順調に育ち、3cmくらいになってきた頃から里親さんを探し、職員やヘルパーさん、知り合いの方などに声をかけ100匹ほどのウーパールーパーをお譲りすることができました。ある時は「子育てなんでも相談会」にウーパールーパーに出張してもらい、立ち寄ってくださった方が興味を持ってくださり、お譲りするケースもありました。その相談会では子どもたちを始め大人も珍しい生き物に興味を示して、会話が弾んだようです。生き物がいるとその場が和みますね。みらくるちっぴでも子どもたちが観察をしたり、ウーパールーパーの成長を楽しんでいます。

この3か月間飼育に奮闘する中で、ウーパールーパーの成長を見る楽しさだけでなく、その中でウーパールーパーを通じて色々な方とつながりが持つことができ、たくさんの「幸せ」を感じることができました。まだまだ飼育は続きますが、これからもみんなの癒しの存在として大事に育てていきたいと思えます。



(トモコ・I)

## スタッフ子育て日記

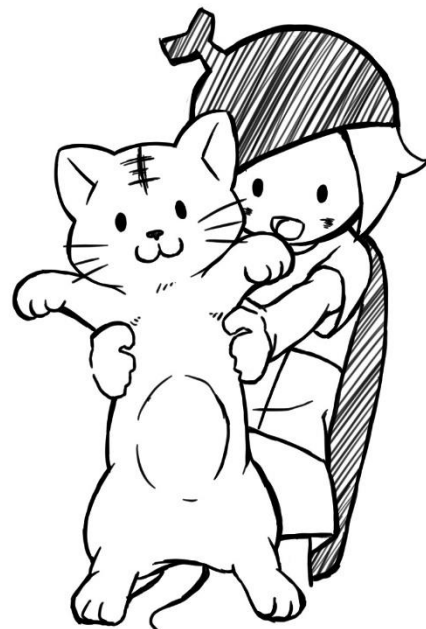
我が家ではユキという名前の猫と一緒に暮らしていて、5月で4年になります。子どもたちにとって猫と一緒に暮らすことはとても良い影響をあたえているようです。

子どもたちは親に怒られたときにはユキを抱いて別の部屋に行きます。ユキと二人っきりになって慰めてもらっているようです。突然連れていかれてユキにとっては迷惑な話かもしれないが癒しの存在となっているようです。

次男と三男はユキにとっては兄弟みたいな存在のようです。一緒に遊んだり、ときにはすれ違いざまに叩いて逃げるいたずらを試みたり。自分と対等な存在と思っているようです。そして長男にはユキから与えられた重要な役割があります。それはご飯を食べるときに傍で見ておくこと。

長男のことをじっと見つめて無言のアピール。長男がそれに気づくと嬉しそうに鳴いて、自分のご飯のところにダッシュ。傍で見てもらいます。「しょうがないなあ～」と言いながらも嬉しそうな長男です。

ちなみに私の役割はというと、必死に鳴いて呼びに来るのでついていくと、ベッドで寝ている妻のもとへ。妻のお腹の上で喉をゴロゴロならしながら満足そうな表情で寛ぐ姿を傍で見ておくように指示が出されます・・・



(シゲヒロ・M)



### 新人紹介



金森克也と申します。今年の二月から桃栗館を中心にみなさんと一緒に活動しています。もうすぐ五十路の新人、心新たに、当事者の方々や関係者の方々と日々楽しんだり葛藤したり、色々、色々、過ごせていけたらな、と思っています。いろんな意味で、面白い日々をしていきたいです。そうできるように頑張ってみます。どうぞよろしくお願ひします。

活動のあと

- |  |   |
|--|---|
| 1/8 グループホームスタッフ全体会議<br>食と農のプロジェクトアクションチーム会議  | 3/20 子育てなんでも相談会(生野子育て社会化研究会)                |
| 1/13 生野区学童期子ども支援連絡会役員会                       | 3/22 執行委員会/内部研修(給与体系プロジェクト会議)               |
| 1/14 内部研修(給与体系プロジェクト会議)                      | 3/24~4/11 たびだち共働作業所・はたらく・つながる「とどりの木」・松野農園閉所 |
| 1/15 執行委員会                                   | 3/25 入学おめでとう会(みらくるちっぷ・みらくる ゆーすと)            |
| 1/16 子育てなんでも相談会(生野子育て社会化研究会)                 | 3/27~28 みらくる ゆーすと合宿                         |
| 1/20 生野区学童期子ども支援連絡会/水彩画教室(松野農園)              | 4/14 生野区グループホーム連絡会世話人会                      |
| 1/22 地域共生ケア生野推進委員会/出発通信発送                    | 4/16 生野区相談支援事業所連絡会                          |
| 1/23 みらくる ゆーすと進路勉強会/内部研修(発達障害勉強会)            | 4/17 子育てなんでも相談会(生野子育て社会化研究会)                |
| 1/25 執行委員会                                   | 4/21 水彩画教室(松野農園)/生野区学童期子ども支援連絡会             |
| 1/27 内部研修(給与体系プロジェクト会議)/生野区 NPO 連絡会/障大連運営委員会 | 4/23 契約更新手続き①/地域共生ケア生野推進委員会役員会              |
| 1/28 奈良教育大学講演(どんどん)                          | 4/24 契約更新手続き②/内部研修(発達障害勉強会)                 |
| 2/4 みらくるちっぷ勉強会/不登校・ひきこもり支援連絡会                | みらくる ゆーすと進路勉強会・ワークショップ                      |
| 2/5 グループホームスタッフ全体会議                          | 4/25 English Park “Sunny Smile”(松野農園)       |
| 2/10 内部研修(給与体系プロジェクト会議)/生野区学童期子ども支援連絡会役員会    | 4/26 執行委員会/契約更新手続き③                         |
| 2/17 水彩画教室(松野農園)/生野区学童期子ども支援連絡会              | 4/28 生野区 NPO 連絡会                            |
| 2/20 内部研修(発達障害勉強会)/子育てなんでも相談会(生野子育て社会化研究会)   | 4/30 内部研修(巽西 251 プロジェクト会議)                  |
| 2/22 執行委員会/内部研修(給与体系プロジェクト会議)                | 5/1 内部研修(発達障害勉強会)                           |
| 2/24 成年後見推進委員会/メンタルヘルス講座/生野区 NPO 連絡会         | 5/6 どんどんプロジェクト会議②/生野区相談支援事業所連絡会             |
| 2/26 地域共生ケア生野推進委員会役員会                        | 5/7 グループホームスタッフ全体会議                         |
| 3/2 消防設備等法定点検①                               | 5/10 防災担当委員会                                |
| 3/4 消防設備等法定点検②                               | 5/10~12 火災通報装置取替工事(グループホーム)                 |
| 3/5 グループホームスタッフ全体会議                          | 5/12 生野区グループホーム連絡会世話人会                      |
| 3/6 知的障がい者(児)ガイドヘルパー養成講座①/内部研修(発達障害勉強会)      | 5/13 内部研修(巽西 251 プロジェクト会議)/生野区自立支援訪問系事業者連絡会 |
| 3/7 知的障がい者(児)ガイドヘルパー養成講座②(どんどん)              | 5/14 執行委員会                                  |
| 3/9 通信編集会議                                   | 5/15 子育てなんでも相談会(生野子育て社会化研究会)                |
| 3/10 イベント「みんなで災害を考える」/生野区学童期子ども支援連絡会役員会      | 5/17 理事会                                    |
| 3/11 内部研修(給与体系プロジェクト会議)                      | 5/19 水彩画教室(松野農園)                            |
| 3/13 知的障がい者(児)ガイドヘルパー養成講座③                   | 5/20 生野区相談支援事業所連絡会役員会                       |
| 3/17 水彩画教室(松野農園)                             | 5/21 メンバー向け総会議案書説明会(配信)                     |
| 3/18 安全委員会/どんどんプロジェクト会議①                     | 5/26 生野区 NPO 連絡会                            |
| 3/19 第三者委員会                                  | 5/27 内部研修(巽西 251 プロジェクト会議)                  |
|  | 5/28 みらくる ゆーすと進路勉強会/地域共生ケア生野推進委員会           |
|  | 5/30 NPO 法人出発のなかまの会総会/内部研修(職員グッドスタート会議)     |
|  | 5/31 執行委員会                                  |

正会員、寄付者として出発のなかまの会の活動をご支援ください！

- ◆正会員・・・活動を支援し、総会に参加して下さる個人の方  
会費 3,000 円+通信送料 300 円 計 3,300 円
- ◆寄付者・・・活動を支援して下さる個人・団体の方  
寄付金 年間 3,000 円以上

★認定NPO法人として認定されましたので、当会へのご寄付は、税制上の優遇措置【所得税・個人住民税(大阪市内府内にお住まいの方)】を受けられるようになりました。  
認定NPO 法人として続けていくためには、年間 3,000 円以上寄付して下さる方が、100 人以上必要です。  
ご支援、ご協力よろしくお願ひいたします。

- ◆購読者・・・出発通信を購読して下さる方 購読料 500 円

☆振込先：郵便振替 00910-9-306080  
特定非営利活動法人 出発のなかまの会

※通信の郵送がご不要の方はご一報ください。

編集後記

新型コロナウイルス対応中は日常が奪われた気持ちでした。そんなときにテレビで流れた春の甲子園で、ふっと日常を取り戻せた気分になるとともに、高校球児に元気を分けてもらった気持ちになりました。日常のありがたみを忘れずこれからも感染予防に努めようと思ひました。

(ヨウイチ・Y)

編集人

特定非営利活動法人 出発のなかまの会

〒544-0011  
大阪市生野区田島1-10-30 たびだち共働作業所内  
TEL 06-6758-6641  
FAX 06-6758-6749

郵便振替 00910-9-306080  
(特定非営利活動法人 出発のなかまの会)  
Eメール nakamanokai-1@tabidati.jp  
ホームページ https://www.tabidati.jp/ 750 部

一九八四年八月二十日 第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行

発行人 関西障害者定刊行物協会

大阪市天王寺区真田山町二・二 東興ビル4階

頒価百円